都立病院の充実を求める
連絡会ニュース
〒170-0005 豊島区南大塚2-33-10
電話 03-6912-1871 FAX 03-6912-1872
メール thei41822@blue.ocn.ne.jp
発行 2021・2・23 第98号

こんな時に独法化するなんて
80人以上集まり声を上げる
都立・公社病院の独法化中止

16日、都議会北側歩道で、人権としての医療・介護東京実行委員会主催の「都立・公社病院の独法化中止をめざす2.16都民行動」が行われました。80人を超える参加で、当日午後に開かれる都議会厚生委員会で請願が審議されるため、各団体から多くの方が参加しました。

前沢代表委員の司会で始まった集会は、まず「実行委員会」の窪田事務局長の開会挨拶、続いて、東京自治労連の椎橋副委員長、日本共産党都議団から曽根都議会議員が挨拶。「広尾守る会」の金井さん、「荏原守る会」の大島さん、「墨東守る会」の原さん、駒込病院看護師で都庁職病院支部長の千葉さんからは各病院のコロナ対応の状況や、患者さんへの思いなどの報告がありました。

署名呼びかけ人のひとり、宮子あずささんは、自らの看護師経験から、「医療の効率化を求められる30年だった」と述べ、「患者さんを早く退院させないと病院全体が赤字になってしまうような無慈悲な診療報酬制度が問題、皆さんと一緒に独法化反対の声を上げ続けます」と力強い激励の言葉をいただきました。

宮子あずささんも激励の挨拶

同じく呼びかけ人の本田宏さんは、ご自身の著作「日本を安心して生きられる国にするために」を紹介しながら、明治以降日本は国民の命を大切にしない国になったと述べ、「公立病院の独法化や再編統合は医師不足と赤字だから。この事を一人でも多くの国民に伝えたい」と訴えました。

当日参加はできませんでしたが、川嶋みどりさんからはメッセージが寄せられました。（連絡会ニュース97号掲載）

多摩地域からは、「多摩ほく良くする会」の小野塚さん、「多摩メディカル良くする会」の森永さんが、各市議会への陳情など、それぞれの取り組みを報告しました。

最後に連絡会の高橋事務局長から、今都議会での請願が否決されても今の署名を続け、都議選に向けていろいろな取り組みを行い、独法化中止まで運動を続けるとの決意表明がありました。

都議会厚生委員会で35,000の請願不採択！
独法化準備のための予算は39億円も計上
引き続き運動を続け署名を積み上げる

16日の午後開かれた厚生委員会で、請願は不採択となりました。しかし、独法化の準備予算は今年度の6倍の39億円も計上されています。この予算は病院への支援などコロナ対策に使うべきです。

17日に開かれた都民連の都議会開会日行動では、前沢代表委員がこの事を訴え、引き続き署名を積み上げて独法化中止まで闘う決意を述べました。

都議会北側歩道に集まったみなさん

都民連の都議会開会日行動で訴える前沢代表委員